18
332

025710-000-8

18-332

湯島温泉案内記（但馬城崎）

三宅 徳介／編

M26

ADC-3244

78-352

溫州府志

東洋文化研究所

盡穆穆黃苗之風和
游乎冥漠惟此世而
六藝其德彌尊

咸治辛卯春

蘭疇

時年九十五歲

爲雅庵

乙酉六月廿四日 沈爲

杉雪

一定書樂

○城崎温泉誌序

小倉百首。載小式部內侍歌。婦人孺子莫不記大江山生野天橋立等名焉。歌詞雖因音便。謂生野路遠者。其嶮難可知矣。蓋昔者山陰一帶。山岳綿亘。道路極峻。壯于健夫。猶難於行。況幼弱女子。其以爲難宜也。今則瀛車電馳。頃刻千里。下車則人馬郵送。日三四十里。經三五日。可以馳百餘里。而發京都至生野。特一日程耳。辛卯秋。岳陽前田君遊丹波但馬歸。語余曰。但之城崎。距生野十餘里。人家三百戸。山間一小市。然長街一道。層樓對峙。飛甍連櫨。市廛之蕃庶。

湯戸之輪奐。凡海內溫泉塲不多見其比焉。因出里人某所著溫泉誌。示余徵言。乃受而讀之。首卷詳叙路程。記名勝。使人殆有遊其境之想。蓋發京都經丹波。過大江山。道丹後見天橋。轉至但之城崎。此爲迂路。然諸名勝在焉。欲其近且速。則經生野。駕瀛車歸京都。不過一日半程。若費旬日。不獨西京。而東陬諸州之人亦可往遊也。所謂生野路遠者。翻謂甚近亦可矣。乃書以爲序。明治壬辰春秋濤藤井善言題

但馬城崎湯島溫泉案內記

凡例

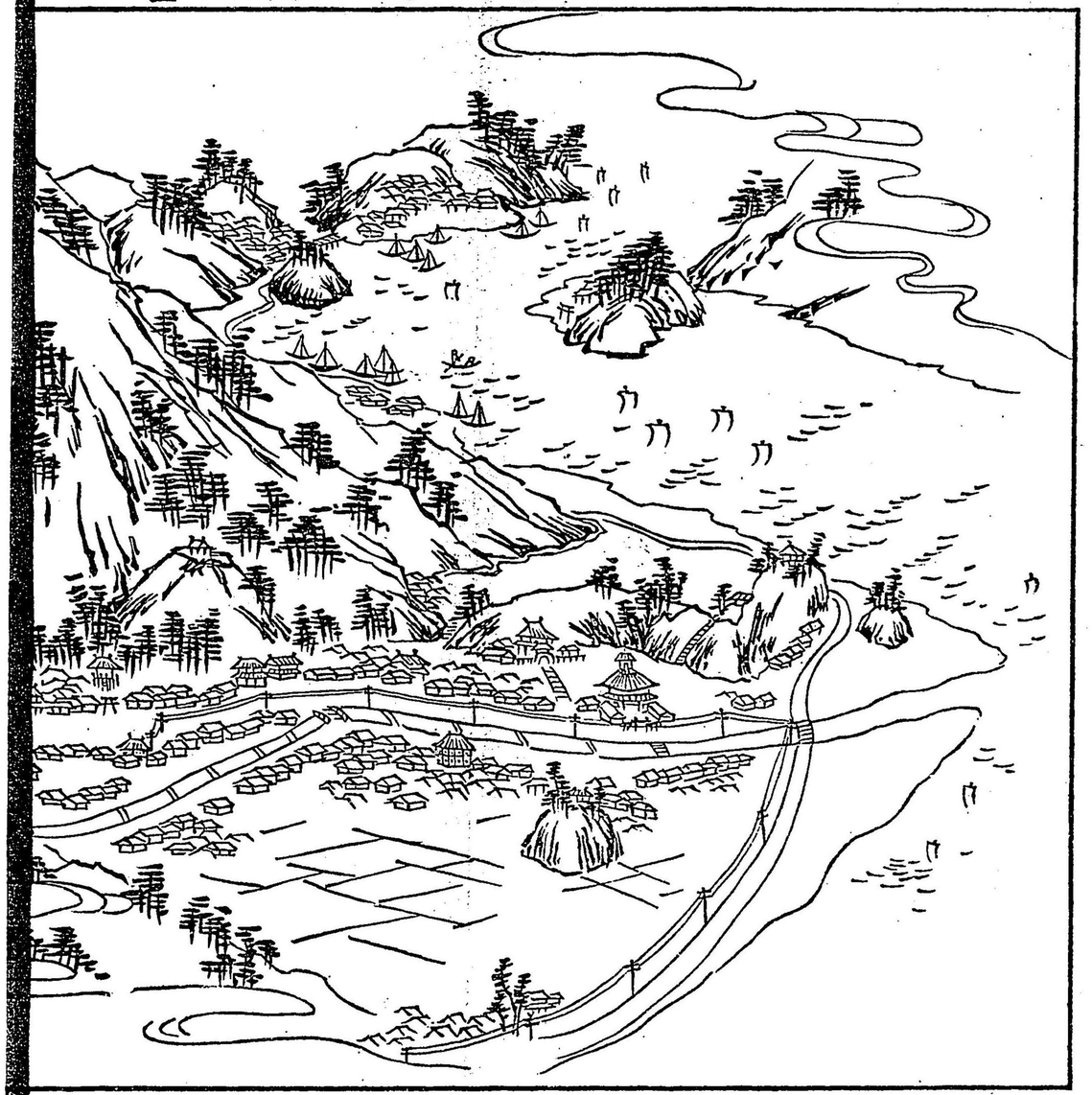
一此書ハ普く來浴者の便利を謀りしものなれバ文字を知ぬ人にも讀易き樣に平假名ませりにし文辭の鄙野ハ編者得意のところなり

一諸國より行程の如きハ舊來の獨案內を刪改して繁きを省き簡に就其大略を記すのみなれば近日改正ありし里數などハ悉く詳かにする能ハず看官ゆるし給ふべし

一溫泉浴法ハ各の病症により種々なれバ普通の心得のみを記す眞に病氣療養の人なれバ醫師に就て敎指を乞ふべし

一名所古蹟ハ記すべきもの鮮からずと雖も煩冗を厭ひ之を略す猶後日別に一冊を纂るべし

湯島全圖



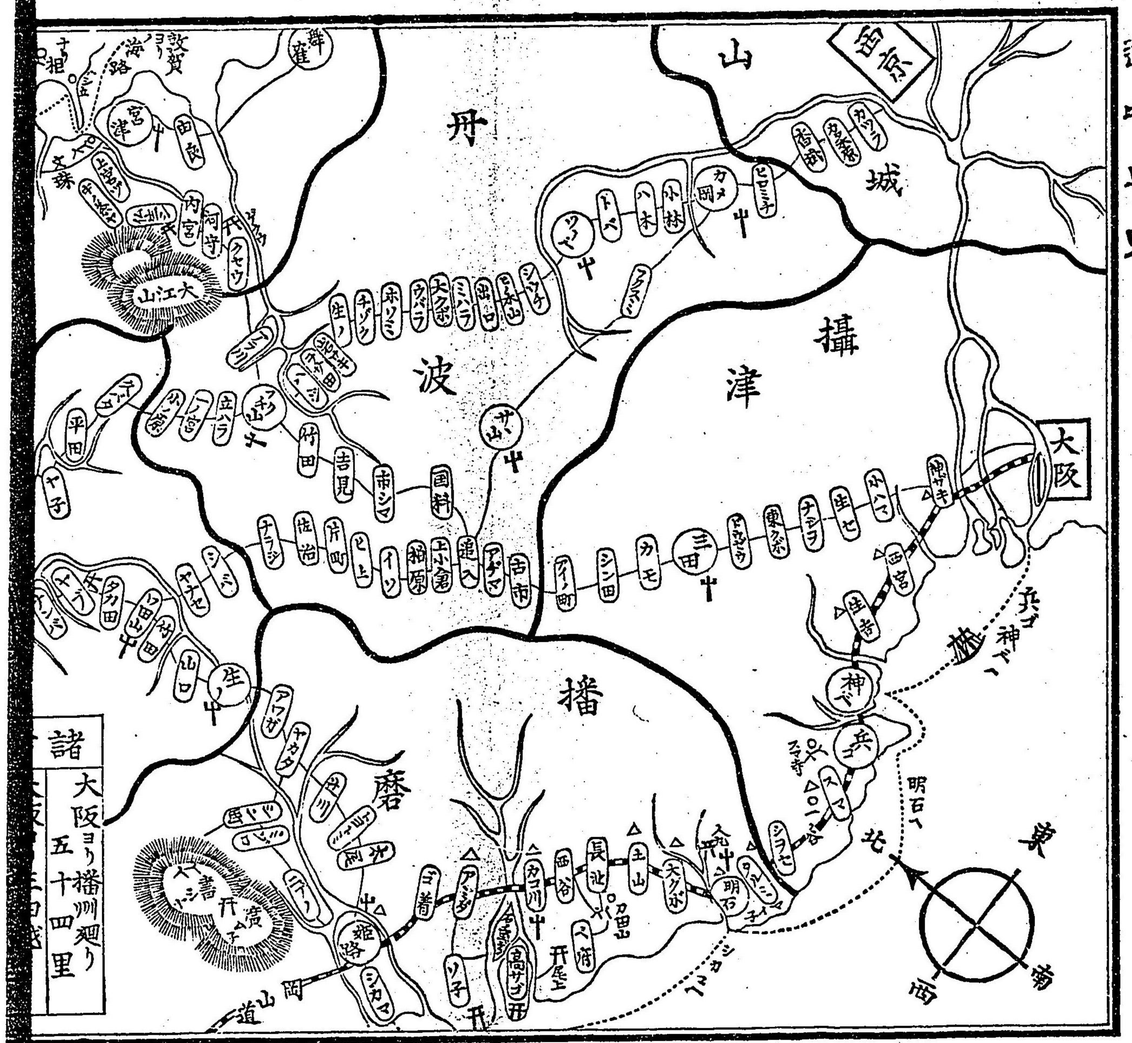
○目錄

○土地の概況……一頁
○諸國よりの道筋……一頁
○姫路より湯島迄……二頁
○大阪より三田越……五頁
○西京より丹波越……七頁
○福知山より橋立廻り……九頁
○温泉の起原及浴槽の位置……十一頁
○温泉分析表……十四頁
○温泉醫治効用……十六頁
○温泉浴法並に心得……十九頁
○温泉服法……廿三頁
○客舍仲間規則……廿三頁
○風土雜錄並に名所……廿六頁

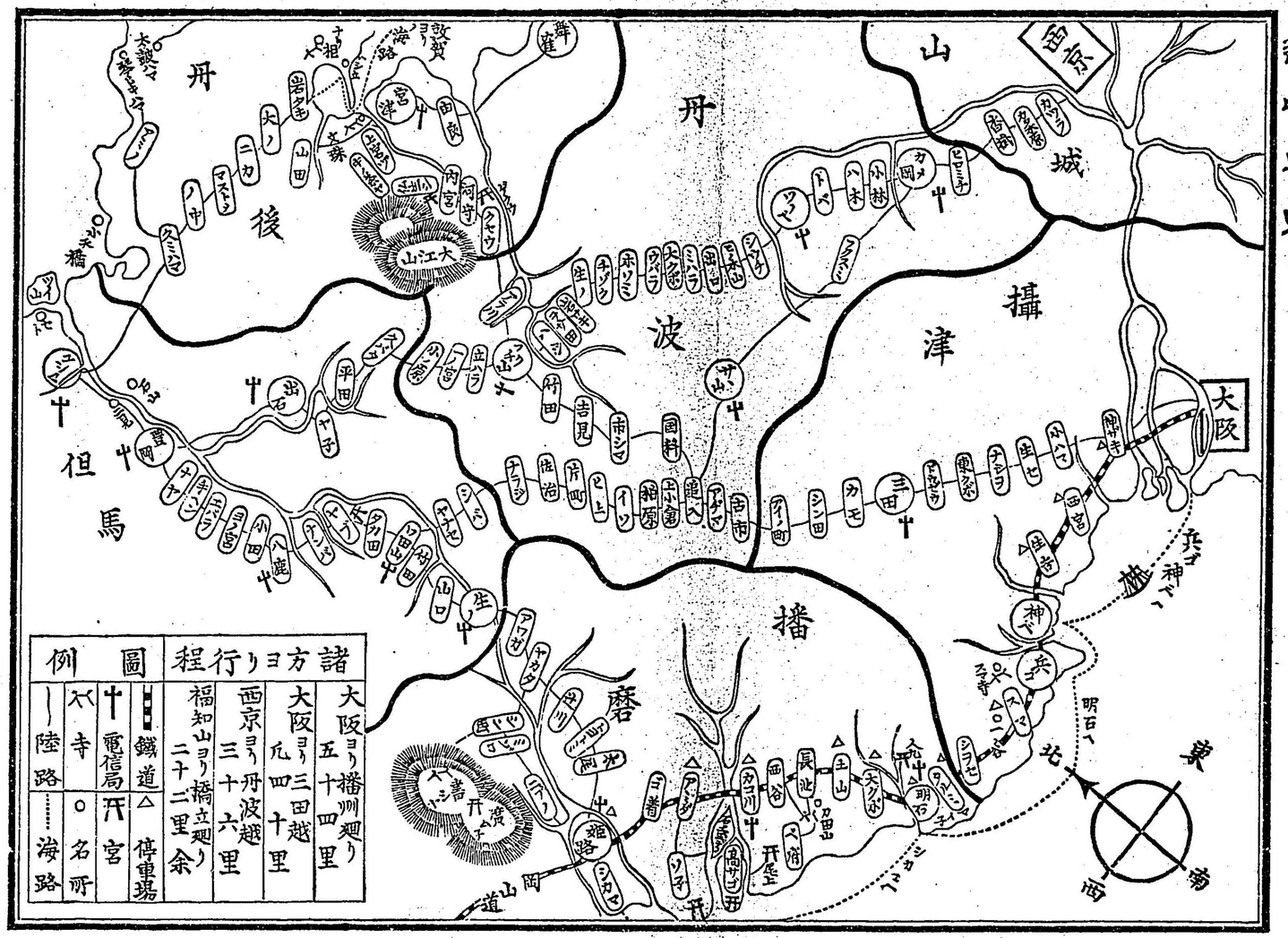
以上

湯島全圖

○禍知山より橋立廻り……九頁
○温泉の起原及浴槽の位置……十一頁
○温泉分析表……十四頁
○温泉醫治効用……十六頁
○温泉浴法並に心得……十九頁
○温泉服法……廿三頁
○客舍仲間規則……廿三頁
○風土雜錄並に名所……廿六頁
以上


京都
大阪
摂津
丹波
播磨
城山
大江山
三田
神戸
兵庫
明石
姫路
高砂
加古川
長池
土山
西谷
生野
山口
篠山
丹波
平田
十子
宮津
文珠
海路
敦賀
東
西
南
北
諸
大阪より播州廻り五十四里

道中早見


丹後
丹波
山城
摂津
但馬
播磨
京都
大阪
神戸
兵庫
明石
姫路
大江山
清水
高サ
開
開
開

但馬城崎湯島温泉案内記

◎土地の概況

但馬なる城崎の郡に有名なる温泉場あり湯島と云ふ古ゝ大谿と稱しに温泉の湧出しより遂に湯島と言習はせり然し遠國の人ゝ城崎の温泉と稱へ湯島と云ば知人少し全体但馬の國ゝ南ゝ播磨西ゝ因幡東ゝ丹波丹後に接き何れも國界ゝ山あれども南播磨に通ずる一路は平坦にして今や播但鐵道の布設に着手し北の一面ゝ渺々たる大海なり湯島ゝ島に非らず海にゝ纔三十丁に足らぬ程なり然るに未だ來浴せざる人は但馬の山多くある事を耳にし難路と心得らるゝゝ大なる誤なり右の如き土地なれゝ能く新鮮なる空氣を流通し海魚なそも澤山にて決して餒きを食せず故に療養にゝ頗る宜しき地なり春秋の候浴客群集し風流韻士飄々來り遊ふ眞に天下の樂土なり

◎諸國よりの道筋

温泉數多あれども此城崎の温泉を海内第一の靈泉となすことゝ皆人の知る

所なり故に來浴者つねに絶ずして多き時ハ三千餘も有り少きも數百人に下らず其の國々ハ丹波丹後播磨の隣國ハ云に及ばず五畿内はじめ西ハ中國すじ安藝より四國ハ阿波讃岐最も多く東ハ近江伊賀伊勢美濃尾張北ハ若狭越前なとの遠方より來る人あり今其の國々よりの道筋を錄して來人の便利にせんとすれども一々擧るに遑あらず因て聊か西京大坂姫路敦賀よりの道を記すのみ

西京大坂中國よりハ播州姫路を廻るを第一の便利とす姫路まてハ山陽鐵道の便に依り夫れ方湯島まて馬車人力車とも自由なれば之れに乘れば一日餘りにして着す又ハ大坂兵庫より蒸滊船にて飾磨へ廻るもよし飾磨ハ中國四國への便船あり故に主として此街道を記す

因に云滊車にて敦賀へ廻り敦賀より滊船にて宮津へ出つるも便利よろし

◎姫路より湯島迄　此行程二十八里

○驛場の下へ何里と記すハ皆次の驛場へなり

○(電)ハ電信局(小)ハ小荷物郵便扱局の印なり

姫路より　一里半(電小)　此より飾磨へ一里飾磨ハ上にいふ如く大坂兵庫及ひ岡山多度津等への蒸滊船の出る所なり○廣峰の社書寫などへ參詣すれハ五六里の廻りにて新町へ出る此道ハ姫路の野里より左にとり板坂越をするなり

二豐野より　二里半
溝口より　一里
新町より　五丁
辻川より　三里
屋形より　一里半
粟鹿より　二里卅丁
生野銀山より　六十丁(小電)　是より但馬國なり此所に御料局の鑛山あり多くの金銀を出す其の規模廣大にして目を驚かす拜見する事を得其の順序ハ宿に就て問べし

因に云ふ姫路より銀山まて十一里今や(播但)鐵道布設中にあり不日

成効の上へ非常の便利なるべし

山口より　二里余　村端に維新前銀山義舉の十七士の墳墓あり
竹田より　一里　驛後の山上に城趾あり
和田山より　一里八丁（小電）　三田越へ大坂への通路なり
高田より　一里
養父より　一里　但馬五社の一にして養父明神あり
網塲より　二十丁
八鹿より　十丁余（小電）
小田より　十丁余
寄宮より　一里半
江原より　一里
手邊より　二十丁
納屋より　一里余
豐岡より　三里（小電）　是れより湯島へ三里へ近くして船車とも

至極便利なり朝へ下り船あり午後へ湯島歸りの船車あり又此頃川蒸氣造船中にて日ならず毎日三回以上の往復を爲すの便利を計れり

◎大坂より三田越湯島迄　此の里數四十里

大坂より　二里　北野大融寺を北へ出るなり又堂嶋大江橋を北へ行き露の天神より北へ出るもよし
神崎より　三里
小濱より　一里
生瀬より　一里
名塩より　三十丁
東久保より　五十丁
道塲川原より　二十五丁
三田より　一里半
加茂より　一里半

新田より　一里
藍の町より　一里　此間攝津丹波の國界とす
古市より　一里半　直に往は笹山道にして行程二里半
味間より　二里余　此の間大山村の中程より笹山道あり
追入より　四十丁　此の間に鐘が坂と云ふ隧道あり
丹後橋立を見物する人ハ隧道の口を右へ行くなり其道筋ハ國領まで一里半●市島まで二里●吉見の竹田まで一里●福知山まで二里●福知山より後ハ橋立廻りの部に委し
上小倉より　半里
柏原より　半里
石負より　二十五丁
氷上より　一里
片町より　一里
佐治より　一里半
遠坂より　一里　此の間丹波但馬の國界とす
柴より　二十五丁
矢名瀬より　一里
和田山　是より先きハ播州姫路廻りの部に記す

◎西京より丹波越へ湯島迄　此行程凡三十六里

西京より　一里　七條通りを西へ取て朱雀へ出るなり
桂川より　半里余
樫木原より　二十丁
沓掛より　五十丁　此の間山城丹波の國界とす
廣道より　半里
龜岡より　二里（電）　龜山とも云ふ此より笹山への道あり
八木より　一里
烏羽より　一里
園部より　二里（電）

須知より　五十五丁
槍山より　二里　此驛を直に行けゝ大原の社
下大久保より　一里
兎原より　一里
細見より　十五丁　一に小路が野と云ふ
千束より　一里
生野より　二里　此邊より福知山まで明智光秀の軍法の道とて屈曲道多く見へ隱れせり
福知山より　一里余（電）　荒川へ廿五丁荒川より少し往き上天津二軒茶屋の前に建石あり右は丹後橋立道左が城崎湯島道なり橋立廻りゝ別に委しく記す
立原より　一里　此間に分れ道あり右ゝ出石左ゝ和田山
一の宮より　一里　御嶽山右の方に見ゆ役の行者の開基
小野原より　一里半　此間丹波但馬の國界とす

久畑より　一里
平田より　一里
矢根より　一里
寺坂より　十丁
出石より　三里（小電）　此より豐岡へゝ船車の便あり
豐岡より　三里（小電）

◎福知山より橋立廻り湯島迄　此里程凡廿五里

福知山より　二十五丁（小電）　此より河守まで三里の間船あり
荒川より　二里　少し行上天津二間茶屋の前より右へ行
公庄より　二十五丁　此前に丹波丹後の國界あり
河守より　一里　此に外宮あり此外宮及び内宮ゝ世に云ふ元伊勢なり○此處より宮津へ車道あり
内宮より　一里　内宮是なり社を左へ行けば天の岩戸に至る誠に難所なり谷底に初産盥初産湯の釜あり

佛生寺より　二十丁　此間に二世川あり之を渡れば宮津道なり左へ行ば大江山千丈が嶽鬼の窟道なり此道を十丁計りゆけば鬼の池洗濯岩三社の神跡千丈が瀧あり志ざしあれば廻るもよし

中の茶屋より　凡二里　普甲嶺あり景色いとよし

上宮津より　二十八丁

宮津より　二里（小電）　越前敦賀港へ定期航海の滊船あり

是れより天の橋立切戸の文珠まで一里舟あり橋立より江尻村まで至れば一の宮あり此れより十八丁登れば成相寺なり橋立の眺め第一とす此れより岩瀧へ一里なり

岩瀧より　六十丁（電）　宮津より此所まで舟あり少し行けゝ大内峠といふ坂あり橋立の全景を眺む俗に大内峠の股のぞきと云ふ景色のよき思ふべし車道なれば峠を越へず山田村より大野へ至る

大野より　五十丁

二箇より　半里

鱒留より　二里

野中より　二里

久美濱より　四里　入江あり松江と云ふ海口の沙嘴に青松繁茂し之れを望めば橋立に似たり故に小天橋と云ふ此より一里ばかりにして但馬丹後の界とす濱廻りにて久美濱より宮津へ出づれば彈琴濱太皷濱穴文珠などの名所多し○此の西京より橋立まわりゝ山坂多き處なりしに近來大に道路を改修せしかば馬車を通するに至れり

◎城崎湯島

○温泉の起原及び浴槽の位置

温泉の始て湧出てしは舒明天皇の元年にして今に至り千二百余年なれども更に變りたる事なし眞に稀代の靈泉なり其後元正天皇の養老元年に何處よりか聖僧道智といふ者來りて住すること三年にして四年めに始めて浴槽を開きしとなり之れを曼陀羅湯と云ふ記錄あれども之を畧す

浴槽の場所は六に分れ鴻の湯。曼陀羅湯。御所の湯。口の湯。柳湯。地蔵の湯。といふ總て十六槽あり其中浴客の最も群集するものを口の湯。御所の湯。曼陀羅湯となす其外家具洗滌の爲に小槽を設けしところ多し大抵深く地中を堀れば何處にても湧出るなり近來飲用水を得んが爲め堀抜井戸をなせしこと五六ケ處なりしも孰れも皆な温泉のみ奇妙といふべし

○鴻の湯

上の町を離れて山根にあり土地の口碑にハ此湯を温泉湧出の始めとす其説に曰く一農夫あり屢々鴻の草間に下るを見て之を怪み潛み窺ふに足を病みたる樣子にて水の所に足を浸して伏せるなりかくする數日にして病全く癒へしと見へ飛去りて復來らず是に於て農夫其水を探り試みしに温泉なりしかバ村中相謀りて其の處を鑿り之を此鴻の湯となすといふ

○曼陀羅湯

上の町の南の山根にありて一棟を分て二槽とし●一の湯●二の湯といふ誠に清潔にして玲瓏晶瑩なり一日代りに幕湯となす幕湯の事は客舍仲間規則の條に委しくしるす此浴場の前に扣所ありて温泉支配人及び湯女のつねに此に居て浴場の取締をなすなり此湯は聖僧道智の造りしものにて湯島浴槽の創始とす

○御所の湯

上の町の山根にあり二棟を三槽に分てり●一番●二番の二槽は誠に清潔にして玲瓏瑩晶なり二槽一日代りに幕湯となすまた扣所ありて支配人湯女つねに居こと前におなじ三番は少し温度低し

○口の湯

下の町と中の町との交にて北側の山根にあり二棟を七槽に分てり●一の湯●二の湯ハ一棟にして二槽にせり誠に清潔にして玲瓏瑩晶なり二槽一日代りに幕湯となすまた扣所ありて支配人湯女等のつねに居ること前におなじ●新湯●三の湯●かせ湯ハ温度少し低し又常の湯ハ一二の湯に同じく五槽ハ巨大なる一棟なり

○柳湯

下の町の裏にあり不潔者の浴に設けしなれども近來改築せしより一棟を分て二槽とし一槽を清潔にし專ら浴客の浴するものとす

◎地藏の湯

下の町の口にあり

◎温泉飲用場

飲用場は曼陀羅御所の湯口の湯の三所にあり皆清潔にして温度强し其飲法ハ下條に委しくしるす

◎温泉分析表

近世後藤艮山香川秀庵新宮涼庭などの名醫書を著し海内無双の良泉と稱しより世人皆この温泉の治驗著るしきを知ると雖その原質の微細に至りては知る術なかりしに近ごろ化學大に開け百物分析のできぬなし此時に當り温泉の如き等閑にすべきにあらず因て生野鑛山御傭教師佛國醫學士エロン氏初めて之を分析し次に大阪司藥場教師ペウドワルス氏又之を分析す近年獨逸鑛泉博覽會に出す爲に司藥場長内務省三等技師村橋次郎君重ねて之を分析せり然れども何れも大同小異なれば今其繁を厭ひ分析表ハ其一を示す

○此鑛泉ハ大抵透明にして無色無臭なり鹽樣の味を有し其反應は亞兒加里性にして其異重ハ攝氏十三度の温に於て一〇〇三五七に居る　○一リーテル中に含む固形分の量　五九五ガランム　其内水に溶解すへきもの　五六〇ガランム　其内水に溶解す可らざるもの　○三五ガランム

○此鑛泉の中に含める鹽類の主要なるもの左の如し

「含有物の分量ハ各家まち〳〵ゆへ略して夥多僅微なるものを記す」

硫酸加里	僅微
格魯兒ナトリーム	夥多
ブロームナトリーム	僅微
硫酸曹達	僅微
炭酸曹達	夥多

硝酸石灰　僅微
格魯兒麻個涅失母　僅微
珪酸　仝
格魯兒カルシユーム
燐酸　夥多
鐵　痕跡
有機分　仝

○此鑛泉ハ陸分多量のコロールナトリーム(食鹽)を含める弱炭酸泉と定むべし

◎温泉醫治効用

凡そ温泉にて病を治さんとするは先自己の病質と温泉の元質とを得度吟味し其病質に合ふや合ハざるを考へざるべからず若しあはざる時ハ効なきのみならずして害あり因て左に錄する醫治効用を見合すべし但主要なるものばかりにて一々委しき能ハざるゆへ土地の醫師に診察をうけて問合すべし

今示す所の醫治効用ハ礦山寮教師佛國醫學士エロン氏及び司藥場教師ベウドワルス氏の手になれるものなり

「病の名は醫家の稱ゑにてハ俗に解し難きゆへ皆その下に假名ま せりにて俗の名を記せり」

○消化不良慢性腸胃加答兒　飲食こなれ悪く溜飲宿積の類
○慢性氣管支加答兒　痰せき喘息のるい
○腺病　るいれき胎毒など諸瘡のるい
○黴毒、淋疾、痔　ひへ、りんびやう、ぢ一切
○貧血病　色青く力なく氣分うつする症
○下腹充血　内痔、せんき、のるい
○皮膚病　ひせん、たむし、はたけ、など表面の瘡毒
○傻麻質斯、痛風、歴疾風　ふしぶしの痛む症
○子宮諸病　ながち、しらち、月經不順、子のできぬなど血の道一さい

○胸膜炎、腹膜炎、の滲出物　胸腹のはれて痛む症
○金創、打撲　きりきず、うちきず
○脚氣　かつけ
○慢性胃腫脹　腹はり、胸つかへる症
○癥痕痛　きずの痕たる跡の痛む症
○腎臓病　消かち又ハ腰の痛むなどの症
○肺結核　肺よう、肺ろう、
○脊髓災　中風、しびれ
○肝臓病　れうはん、おうだんの類
○石痲、腎石、膽石　石りんの類
○鉛毒、水銀毒　みづかねなどの毒の殘たる類
○膀胱加答兒　小便のかげんわろき症
○局部广痹　手足など所々のしびれる症
○慢性水腫　水ばれの永く治らぬ症

○神經性頭痛　○神經萎衰　○神經の官能其常調を失ふに由て筋の運轉支障より發る諸病顚振搖掣の類

◎害ある諸病

●癇病かつたい　●多血症、　●心ぞう肺ぞうの充血
●心臟大血管などの欠損あるもの

右の四病ハ害あり但此温泉に限らず何所の温泉にても宜しからざるなり

◎温泉浴法並に心得

○古來温泉治療の時節ハ大低六月より十月までを善とし之を温期といへり然し是は陋説にして取にたらず實に病氣を治さんとする人なれば年内いつでも好時期にして決して此區別はなきものなり

○温泉治療の日數ハ病氣の摸樣によると雖も三四週間より短かるべからず長きハ五十日或ハ百日浴べし其治驗の見ゆるは人々の體質と病質との樣子により緩かに一週間にして徵候の見るもあり或ハ二週間或は三週間と色々にして定りなし其徵候の見ゆる時勉めて三四週間も入べし誠に緊要の時

なり長病頑痾なれは二三年の間重ねて入浴すべし之を迎湯といふ然らざれゞ全治し難し又は入浴中には効驗なくして歸て後に現るゝこと多し

○澡浴の數ゝ虛弱人は始め二三日ゝ一日に一度それより慣れたる處にて二三度强健人と雖も四度より過すべからず然るに慾ゞりて數多く入これを慾湯といふ慾湯の害ゝ甚だ畏るべし

○浴室の内にある時は極めて平氣にし遊樂に來し心持にて優遊となし柄杓にて灌ぎかけて後一度浴槽の中につかり其後に病の所に柄杓にて十分に灌ぎかくるを宜しとす凡浴室にある時間ゝ二十分より三十分位のものなり餘り長きゝ宜しからずして害あり

○浴槽の内につかる時間は各の强弱によると雖も五六分より十分餘り位のものなり凡そ身體の程よく温まるを適度とす無理に强るゝ宜しからず温度は自分の心持にて温なと思ふ位にてよし熱きを好むゝ大に心得違ひなり大概華氏の百度位より百七八度までを宜しとす

○湯に行くの時刻は食後なれゞ少くも一時間餘り經ざるべからず又あまり空腹の時も宜しからず動もすれば眩暈などすることあり萬一その心持あるときは身体を動さぬ樣にして早く冷水を面に浸し口に含むべし然らずして動くときゝ目を舞すことあり

○湯中といふことあり身體大に疲れ或ゝ熱を發し喉渴き隨分苦しきものなり此時は二三日湯を休むべし仔細なきものなり此ゝ餘り熱に入り或ゝ浸湯時間の長に過ぎたり或は浴數の度に過ぎたるに由なり是と違ひ温泉の爲に病の動て發することあり又は腹痛み下痢することあり此は湯中にあらず温泉相應の徵候にして喜ぶべし然れど外の病なるも計り難ければ此時ゝ醫師の診察を受るをよしとす

○凡入湯は逆せるものにて逆上質の人は目爛るなどの患あり此樣の人は浴槽より出し度に水にて頭および面をよく〳〵冷すべし

○入湯中は皮膚ひらき感冒をひき易きゆへ冷ぬ樣にして十分注意すべし邪熱ある時は湯に入べからず因てよく〳〵用心すべし然し餘り蒸すなどして無理に汗するなどは身体つかれて反て宜しからず

○浴槽を出し時は十分叮嚀に拭ひ家に歸りて後また乾たる物にて更に拭ふべし汗なり垢なり俱によく拭ひ取るをよしとす

○浴衣は澤山に持て湯より返れば善く乾たる清潔なと衣換べし

○夜は早く寢て朝は早く起くべし假寢なと決して爲すべからず

○一日に二三回は少しづゝ散歩すべし郊外茂林の中を殊に宜しとす揚弓大弓借馬の遊戯は第一なり雨天なれば掃除なども妙なり

○飽食暴飲すべからず飲食は常より減す位が入湯中は爲の宜しきものなり酒に醉たる時は浴べからず甚だ害あり

○房事は一切これを慎むべし

○入湯中は心を安め氣を慰めるを第一とし平生の氣持を全く置きかへいかにも緩かにし世事を忘れざれば効驗すくなし凡入湯は温泉の功能のみならず氣分の換るにより餘程の効驗あるものなり

○温泉の浴法には色々の俗説ありて頭より灌ぎ掛るを善とし蒸して汗をするを善とし歸國の後に入湯の日數はど風呂に入るを善とするなど樣々といふ者あれど必ず信ずべからず

○保養のしかたは病症により種々にて一定ならず右に記すは普通の心得のみ故に委しきことは醫師に診察をうけ其教指に從ふべし

◎温泉服法

○湯を飲ば隨分効能あれども分量を過れば惡し空服にあらすば決して飲べからず飲で後は半時間を經ずば飲食すべからず食物の胃腑に多分あるに飲は胃腑を害するものなり

○分量は一日に二回か三回にして五六勺位より一合位を一回とす老人小兒は少し減すべし温度いなまぬる位にさまして用るを宜しとす餘り寒冷と非常に熱い惡し内服を善らずとして忌嫌ふ人あれど甚だ然らず胃弱にて胸につかへる症又は黴毒には最も効あり

○此温泉を飲ば大便少し緩み便秘症の人は心持甚だよし然し人によりて强く下痢するあり此人は多量用ゆべからず

◎客舍仲間規則

○温泉場の客舎は通例何處にても途中一宿の旅籠屋と大に異なれど此湯嶋は最も其風を異にし之を業とするもの五十戸程ありて仲間の規則甚だ嚴格なり其大法を左に記す

○客舎仲間の中に行司なるものありて萬事取締をなし仲間惣代の出張所を入口に設け此には來浴者の國所を記し其國所にて親屬の人か懇意なる人などの指圖あれば其客舎に案内す然らずして途中の旅籠舎又は船頭車夫などの指圖なれば改めて相應なる客舎を見立て案内す若し之に從はず無理に己の志ざす客舎に至るも其客舎より謝絶するゆへ矢張其案内に從ふべし且志ざす方なき人は此所より相應の宿に案内す若しその宿に不都合あれば行司之を扱ひ外の宿に何時にても移し換ふべし但し一宿の客は此規則に係わることなし

「此規則ハ人の自由を妨げる樣なれど大勢の入込ゆへ取締なり難く且つは各長滯留ゆへ凶變災難の起りし時に都合よき樣にせしなり故に何事かあるときハ何人にても行事にて萬事世話をなす」

○客舎の賄方ハ皆同樣の木錢にて朝は茶漬にて晝ハ一汁一菜なり晩も同し

一宿の客なれバ此限にあらず旅籠にて賄ふなり

「此規則を不便といふ人あれども兩方便利にして決して惡きことなし第一宿ハ手數を省き欵待手輕にして落度少なく客は費用少くして長逗留するに宜し若し金錢を惜ぬ人なれバ自分にて何なりとも買調へ宿に賴み料理さすべし又割烹店あるゆへ望次第に好むべし起居不自由なれば小使を雇ふべし」

○蒲團蚊帳の類ハ損料にて宿より貸すなり此は價により種々あり

○席ハ一組に一室を貸なり席により次の間の附しもあり附かぬもあれど入込にすることハ決してなし

○席料ハ他の温泉場の如く別に取らぬゆゑ客に於てハ心持いたして宜し

○米炭油醬油酒茶などの類ハ宿の得意の穀屋より持込にて逗留中ハ日々小僮見まわりて無きものあれバ持來るなり

○湯履柄杓なども到着の節穀屋より持來るゆへ氣に入りし物を買べし價ハ

米炭などゝ同く通帳に記し置ゆへ發足の節に算用するなり

○旅費又ハ大切なる物は宿に預べし預書を出し預り置き叮嚀に保管す

○湯ハ幕と入込とに區別す幕湯は帷幕を垂て外の湯と別つ支配人ありて之を主どり湯女世話をなすゆへ雜沓することなし注瀉桶謝恩ぢうちなどの器械もありて萬事便利なり幕湯を望む人ハ宿に告置バ湯女案内に來る又切幕あり此ハ一人にて買切にし其人の湯にある間ハ余人を入れぬなり

○幕湯ハ一日に三回づゝ切幕ハ二回湯女案内に來る

○幕湯錢は發足のとき支配人より取次で温泉掛へ納め温泉掛よりハ領收證を渡すなり又入込ハ一回に入浴券一枚を持參すべし

◎風土雜錄並に名所

○土地の人氣は諸國輻輳の所なれども邊鄙ゆへ狡猾輕薄なることなく淳朴にして親切なる風あり故に氣樂にして保養には至極よき所なり

○氣候は北によりし國なれば寒きかたにて夏分は甚だ凌ぎよし暑を避るには尤もよし

○市街の戸數は僅に三百餘なれども一條街ゆへ長し家は皆二階造にして屋根は殘らず瓦をもつて葺たり客舍は三階造なるもの多し

○市街を分て三となす上の町中の町下の町と云ふ

○上中の兩町は麥稈細工桑細工の店兩側に列べり麥稈細工は種々の花鳥などの摸樣を細工し目を驚かすばかり奇麗にして內外博覽會にも度々褒賞を賜れり近年までは浴客の土產に用ゆるばかりなりしに此節は西洋貿易に多分遣し其外諸方へ賣捌き日々盛になる勢にて細工も益々精功になれり桑細工は良匠おほく日用の道具類何にても其需に隨ひて製造す隨分堅牢なる故世評よし

○郵便電信局ありて郵便は日に三回配達し金錢の爲替並に貯金の設けあり荷物は通運會社あり且小包郵便も取扱あり

○酒樓割烹店は拾余戸あり藝妓は三十名位に過ず娼妓はなし此は養生の地ゆへ餘り盛ならぬを善とするなり

○大弓揚弓遊覽場は藥師堂の境內にあり

○食物の類は舊き道中記獨案内などには甚不自由なりと記せども今日に至りては然ることなし魚類は河海とも近きゆへ澤山にして價やすし西洋料理店もあり酒は上國風にて惡からす又灘酒西洋酒もあり

○寺は四ヶ寺あり温泉寺極樂寺蓮成寺本住寺といふ温泉寺は眞言宗極樂寺ハ禪宗蓮成寺は眞宗本住寺は法華宗なり

○温泉寺は上の町のはしにして山を登る三丁程の所にあり　聖武帝の天平十一年の創基なり　聖武帝より山號を賜ひ末代山といふ本尊は大和泊瀬の觀音と一つの材にて稽文が作せし十一面の觀音なり由來あり緣起を買ふて見べし此開山は道智上人にて湯島温泉の開祖なり本堂の右手に多寶塔あり此より山の頂へ登れば四國八十八ヶ所を摸擬せしものあり此山を甘露峰といふ之を廻れば市中の上愛宕山を越て下の町に出るなり其間一里程にして茶堂二つあり風景殊によし

○藥師堂ハ温泉寺の麓にありて境内には觀喜天堂閻魔堂茶所いろ〳〵の建物あり本堂の右に坊守あり緣起は此にて受べし林泉ハ廣からずといへども

趣よろし二王門には末代山と書せる額を掲ぐ寶鏡寺の宮の筆たり二王ハ運慶の刻ひものにして名作なり門前は松蹲にして其間にハ無數の石燈籠あり是皆温泉の効驗を得し人の獻せしものなり蹲の右に行者山あり

○極樂寺ハ萬年山と號し曼陀羅湯の西にして寺の後に獨鈷水といふ清泉あり門前の山に金比羅宮を鎮座す

○四所明神は村社にして天日鉾尊及附屬の神を祭れり尊は但馬開闢の祖神なり境内に八幡宮天滿宮稲荷の三祠ありて社ハ中の町の北側にあり

○秋葉社ハ本町の山頭にありて愛宕山と相對す紅葉の觀よろし此山秋葉山と稱ふ

○辨天山は下の町の南裏にして小祠あり神樂岡と稱ふ藤花の頃ハ隨分見事なり

○本住寺ハ下の町の端にありて養法山と號し大なる垂櫻あり寺の上に日和山といふて至て低き山あり一丁程登れば頂にして市中を手の下に瞰し北海を眺み山水の景色眞に畫くが如し茶店ありて遊人つねに絶ず好遊場なり飯

後の散歩にハ遠からず近からず至極妙なり北の麓に桃島湖ありて鯉鮒の類を養ふ

○東山ハ湯島の入口大路橋より一丁程登れば頂にして眺望日和山と同じ

○石山といふ所は一里ほど南により城崎川の東側にあり石山ハ俗の名にして玄武洞といふ洞なり實に奇妙稀代のものにて天下に比類なき所なり自ら之を見ざる人にハ其狀を話しても其妙を覺ゆ可らず舟にても車にても行る故必ず一見すべし川の手前には二見といふ所あり天神の社ありて其前に無源水とて名高き清泉あり此所に中納言兼輔卿の咏れし古今集の歌を加茂の直兄大人之を碑に鐫て建られたり

○絹卷明神ハ但馬五社の一にして湯島より二十丁程北によりて大川の東にあり此山の石ハ卷絹を積重たる如く一つ〳〵離して取るべし其名を絹卷といふ所以なり

○瀬戸ハ北海の涯にして湯島より二十六七町ほど北なり津居山とは僅に一橋を隔つのみ海水浴をなすハ此瀬戸を至極適當とす海岸の摸樣は南海とハ大に趣を異にし崖石の形面白くして實に興あり舟にても車にても行べけれども舟なれば網舟を雇ひ獲物を料理して煮焚するなど一層の興味あり此より十余町西に御待山と云ふに瀑布あり見事にハ無れども北海を渾になすゆへ珍しといふ瀬戸より海船を雇ねバ行ぬなり故に行もの少し其間の岩壁の面白きことは譬ふ可らず此邊より産する海草の類數多あれども第一海苔若芽海素麺海蘊等を尤も宜しとす

○城崎八景

温泉晩鐘　松崎清嵐　桃島夜雨　戸島秋月

畑上暮雪　絹卷落雁　氣比夕照　津港歸帆

（これを城崎八景といふ）

但馬城崎湯島温泉案内記終

明治廿六年九月十四日印刷
明治廿六年九月十五日出版

定價金四錢

編輯者　三宅德介
兵庫縣但馬國城崎郡湯島村ノ内湯島村二百五十六番屋敷

温泉事務所管理者
發行者　齋藤甚左衛門
兵庫縣但馬國城崎郡湯島村ノ内湯島村二百三十三番屋敷

豐岡由利活版所主
印刷者　由利力三郎
兵庫縣但馬國城崎郡豐岡町ノ内宵田町八番屋敷

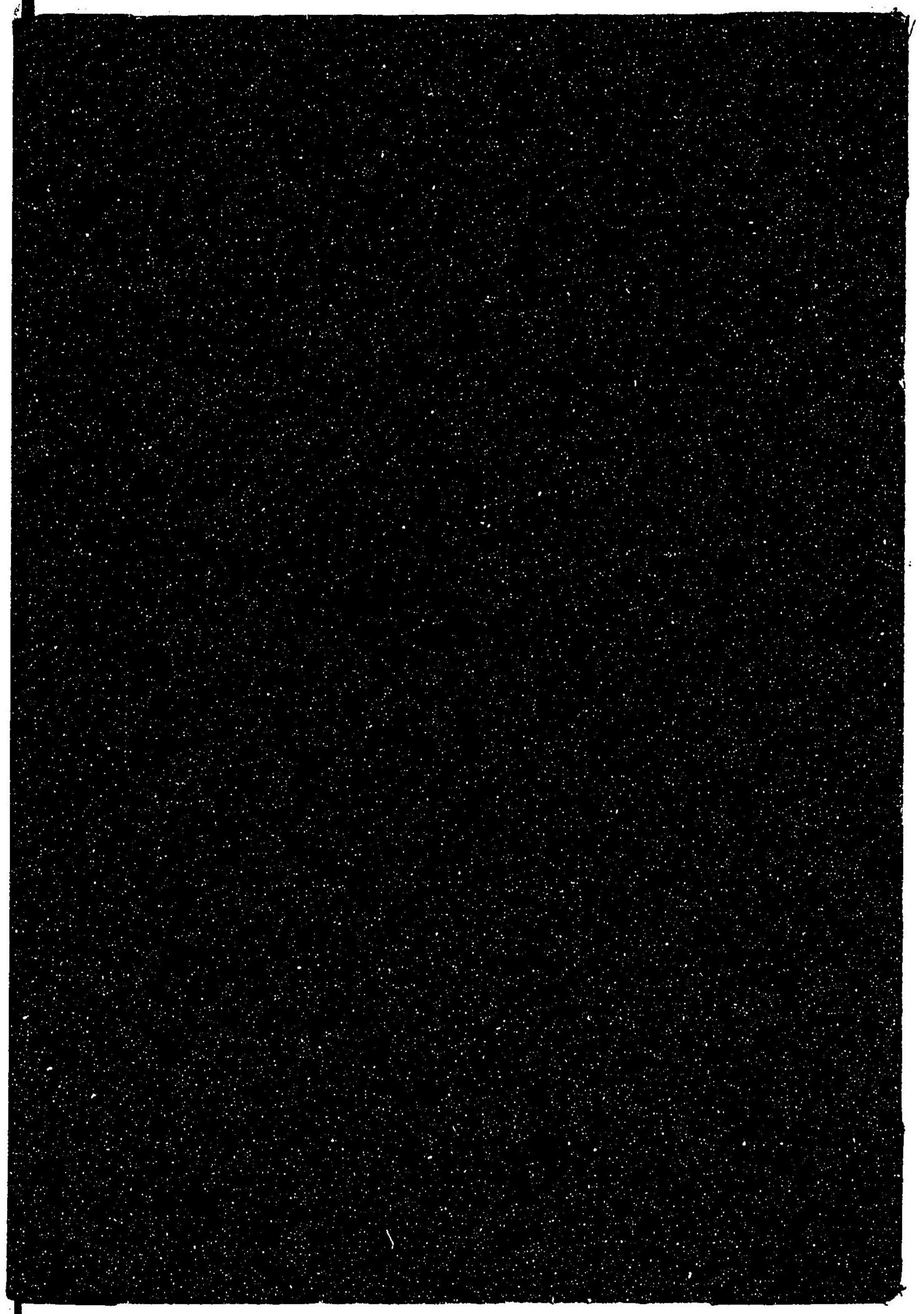
發賣書肆
東京　金港堂　西京　福井源治郎
大阪　柳原喜兵衛　神戸　久榮堂
大阪　吉岡ノ平助　豐岡　石田松造
西京　佐々木惣四郎　豐岡　由利安助

18
332

NO.

"F-M"
PAMPHLET BINDERS
are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thickness
851(菊倍)	30.cm.	x 22.5cm.	x 1cm.
852(四六倍)	26. „	x 18.5 „	x 1 „
853(菊)	22.5 „	x 15. „	x 1 „
854(四六)	18.5 „	x 12.5 „	x 1 „
855(特)	24. „	x 15. „	x 1 „

other sizes are made to order

LIBRARY SUPPLIES OF ALL KINDS
F. MAMIYA & CO.
OSAKA - TOKYO - FUKUOKA